

ご無沙汰しておりました。2年ぶりの「ねばらん通信」です。この間皆様にお知らせしたい事が無かった訳では決してなく、むしろ有りすぎて「通信」を作るヒマさえ無かったのです。ホントですよ！

わくわくひろば は、そんな中で始まった活動の一つ。ねばあらんどの理念のとおり、学童クラブの枠を広げて、地域の全ての子ども達…いえ、地域の誰にでも開放することを理想とした、放課後の遊び場です。

「わくわくひろば」は「〇〇教室」ではありません。だから来た子は自由に遊べます。

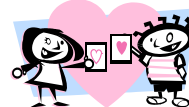
閉校になった小学校の、校庭で思い切りボール遊び、教室の黒板で好きだけ落書き、体育館でただ寝転がる、等々、子どもたちは思い思いに過ごします。…異学年とのやりとりも覚え、ルールを自分達で作りながら…。

わくわくひろば は2005年6月より、閉校になった新松戸北小の校庭・体育館・教室を借りて、月曜と土曜に各2時間ずつ、地域の小学生を対象に、ねばらん職員と専任スタッフで運営しています。昨年度は約90回、延べ2600人以上の子どもたちが遊びに来ました。ねばらんのホームページの下の方に「わくわく日記」があります。クリックして日々の様子を御覧ください。



「花より団子・夢より現実」～わくわくひろばというジグソーパズルの始まり～

「人とつながるのが好き。人はみんな違うんだから、違う考えでいいの。同じになって一緒にやるんじゃなくて、別の事をしながら『共有できることを探す』の。それが『つながる』って感じ？その『共有できることを探す過程』こそがおもしろいんじゃない！」



…と嬉しそうに話す百田さんの夢は、そこに人が二人以上いれば叶えられる夢。夢を持ったら、見るだけじゃなく手に入れるべく動き出す。例えば助成金の申請。皮算用をする暇があったらゲットできるものからゲットする。そして、めでたく助成金を頂けることになると、それから慌てて…いえ、本腰を入れて探すのだ、実現できる場所を、スタッフを、内容を…。それって「ドロ縄」じゃないかって？そりゃあ貴方、まだ百田モグリですね！百田さんってのはそういう人なんだから。「転んでもタダじゃ起きないわよ。…よく転ぶけどさあ。」と大笑いするのが彼女なのだ。

本筋に戻しましょう。で、めでたく助成金は頂いた、新北小を使えるように手配した、スタッフもどさくさに紛れて確保した…そこから既に夢は現実となり、一人歩きを始める。「『子どもだけの国』をやろう。」「えー？どうやって？」「さあ、どうやったら出来るかなあ。考えてよ。」「出来なかったらどうするの？」「出来ることをやればいじゃん。だから出来ないって事はないでしょ。」「え？意味わかんないよ～」



例えば彼女の注文は「おいしいデザート」。美味しければ、何でも OK。一生懸命作ったものなら、市販のホットケーキミックスとホイップ済みのクリームと缶詰のフルーツを使ったデザートでも構わないんだ。でも実は自分も食べたことない他人のレシピではダメ。だから、スタッフは試行錯誤。子ども達の笑顔を確認めながら、大人の欲や都合を押しつけないように、一人ずつ地域の方を取り込むべく…。

ね、彼女がおもしろがるのは「結果」じゃなくて「途中経過」ってこと。彼女はきっとジグソーパズルを作る事を楽しむけど、出来上がっちゃった絵をもらって飾るような人じゃあない。だからパズルを作り始められた時点で、彼女は幸せ。次々ピースが見つかっても、なかなか見つからないまま時間が経ってしまっても、幸せなんだ、作っている過程である以上は。そして「わくわくひろば」というジグソーパズルのピースは埋まっていく。どこに行き着くのか、スタッフもわくわくしながら…！！

文：榎本幸子(わくわくひろばスタッフ)